

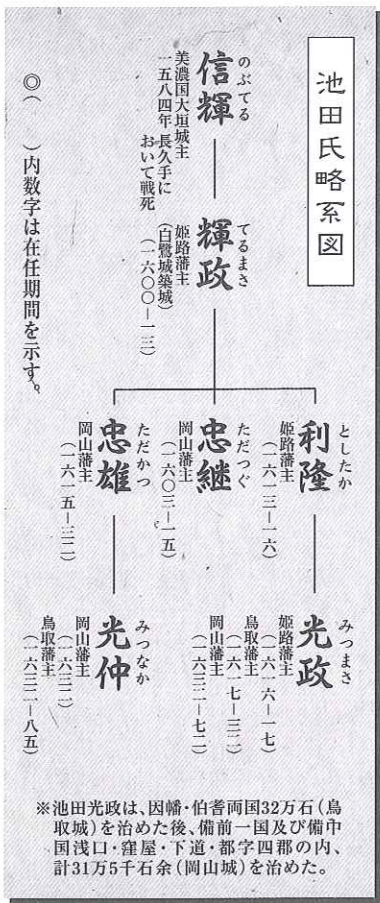


# おかやま連町だより

題字 兼松久和

第7号

発行/岡山市連合町内会・平成17年3月



鳥取市自治連合会との姉妹交流提携調印式:鳥取市役所  
(左から兼松会長、竹内鳥取市長、松本鳥取市自治連合会副会長)

第七号の  
発刊に寄せて

岡山市連合町内会  
会長 兼松 久和

浅春の候、町内会長各位におかれましては益々ご清栄の段、大慶至極に存じます。

平素は岡山市連合町内会の運営各般にわたり直接、間接とを問わず格別のご支援とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて岡山市もこのたび灘崎町・御津町を編入合併し岡山県南政令市構想合併協議会において合意した新市建設計画に基づき国際福祉都市としての更なる発展と政令指定都市を視野に入れ官民が協働して取組まなければなりません。

我々、包括的な住民自治組織の果たす役割は向後ますます大きく重くなることは必定であります。

本紙「おかやま連町だより」も広報活動の一環として平成十一年三月創刊号を発刊し、

ここに第七号をお届けする運びとなりました。

今回は、紙面をより一層充実し、A4版一〇頁といたします。本紙が連合町内会からの情報発信のみならず町内会相互の情報交換紙として機能するようなシステムを構築することが求められておりますので具体的方策を今後検討して参りたいと思っております。

さて当連合会におきましても平成十七年度は節目の年であり諸課題が山積してあります。特に次の項目については重点的に取組んで参りたいと思っております。

①新市の建設について

今回の合併は、政令指定都市へ移行の第一歩と考え、新しい仲間とともに新市建設計画を着実に推進するとともに、町内会長と区長制度の有り方について胸襟を開いて検討しなければなりません。

②岡山国体への取組み

競技会場及び周辺のクリーン作戦・花いっぱい運動・飲

迎のぼり旗の設置や撤去・民泊への取組、啓蒙啓発活動等を精力的に展開するとともに

国体は岡山から全国へ向けて情報発信する絶好の機会であるという認識のもとに、遠来の選手及び関係者を温かく迎える接遇の心が肝要であります。

### ③ 全国自治会連合会創立

二〇周年記念岡山大会の開催  
平成十四年度に引き続き、平成十七年十一月十七日(木)に節目の年の全国大会を岡山市において開催することが決定。

基本的には、岡山県連において実行委員会を結成することになりませんが、その中核は岡山市連合町内会であり、役員や事務局(市市民総務課)が多忙を極めることは必定であります。全国から地縁団体の代表者を迎えて共通の課題で意見交換をし、お互いの資質の向上を図るとともに、全国自治会連合会及び岡山市の一大デモンストレーションでもあり是非、成功させたい。然し予算面では前回より

相当圧縮されるので知恵を絞りたいと思います。

### ④ 鳥取市・姫路市自治会連合会との姉妹交流提携について

刹那的な現代の世相を憂え古き良き時代を想い「温故知新」の観点から鳥取では城下町の基礎づくりを進め、国替えで岡山藩に移って閑谷学校(備前市)を開き、岡山では名君と誉れ高い、池田光政公のえにしにより平成十七年二月二日、鳥取市自治会連合会と初の姉妹交流提携書に調印しました。

地方分権時代を迎え住民自治の基盤である町内会、自治会は地域住民の付託に的確に応えなければなりません。

これからは定期的に相互訪問し、共通の課題で情報交換を行う等、お互いの資質の向上を図ってゆきたいと思えます。

なお光政公の祖父輝政公(姫路城主・白鷺城築城)ゆかりの姫路市連合自治会との姉妹交流提携も早い時期に実現するよう事務局レベルでの協議に入りました。

### ⑤ 防災への取組み

昨年は、台風が悉く日本列島を縦断し岡山市においても台風16号による甚大な災害が発生し防災に対する認識が高まりました。

阪神淡路大震災では、被災者の救出の八〇%が自治会等地縁によるものであり、所謂、町内会、自治会が関与しない防災は考えられません。岡山県は自主防災会の組織率が四〇%台であり全国平均の六〇%台を大きく下回る憂慮すべき現状です。岡山市においても徐々に自主防災会が組織されているようですが当連合会としても岡山市との連携をより一層強化して統一マニュアルを早急に作成するよう検討を開始しなければなりません。以上、これら諸施策の推進に当たっては会議の俎上に乗せ、着実に取組んで参りたいと存じます。

おわりに町内会長各位のご健勝を祈念し、第七号発刊に寄せる言葉といたします。

藩主池田公のえにしにより  
鳥取市自治連合会と姉妹交流提携を結ぶ!

平成十七年二月二日(水)、岡山市連合町内会(兼松久和会長)と鳥取市自治連合会(森西辰良会長)は、鳥取市、岡山市を相互に訪問し姉妹交流提携の調印式を行いました。

これは、江戸時代両市が池田公を藩主に持ち、特に池田光政が鳥取藩主から岡山藩主へ、従兄弟の池田光仲が岡山藩主から鳥取藩主へ移封となり、それぞれの家系が今日に至っている”えにし”によるものです。

調印式は、同日午後二時から鳥取、岡山の両会場で行われました。

鳥取会場となった鳥取市役

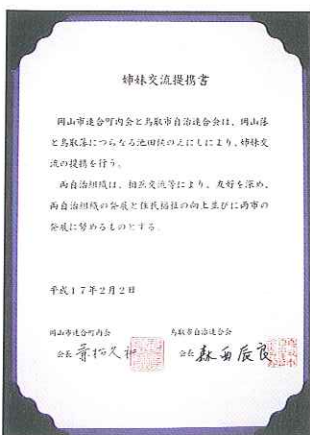
所第一応接室では、竹内功鳥取市長立ち会いの下、岡山市連合町内会から兼松会長ら四人、鳥取市自治連合会から松本光守副会長ら六人が出席し、兼松会長が提携書に署名、押印し、松本副会長に手渡しました。

調印後、兼松会長は「今後、住民自治組織の果たす役割は大きい。一年に一回程度は相互訪問し、情報を交換したい」と抱負を語りました。

その後、一面真っ白な雪で覆われた仁風閣など池田家ゆかりの地を視察し、交流を終えました。

また、岡山会場の岡山市役

所議会議棟第一会議室では、萩原誠司岡山市長立ち会いの下、鳥取市自治連合会から森西会長ら四人、岡山市連合町内会から岩田章副会長ら四人が出席し、森



姉妹交流提携書

西会長が提携書に署名、押印し、岩田副会長へ手渡しました。森西会長は「一年交代で相互訪問し、良いところを学び、

互いに切磋琢磨したい」と抱負を述べました。その後、池田家の墓所がある曹源寺、岡山城を視察し、交流を終えました。



岡山会場での調印式：岡山市役所  
(左から森西鳥取市自治連合会会長、萩原市長、岩田副会長)

今後、お互い積極的に情報交換を図るなど交流を深めるとともに、光政、光仲の祖父である輝政が藩主だった姫路市の自治組織とも交流提携を図ることを視野に入れ、活動することとしています。

御津町、灘崎町との  
合併を契機に政令市を目指します

企画局総合政策課

平成十三年八月、国の「市町村合併支援プラン」により、市町村合併をした場合の政令

指定都市移行の人口要件が緩和されたことから、岡山市とその周辺市町では、平成十四

年度以降、岡山県南地域における政令指定都市の実現に向けて協議を始めました。

そのうち、岡山市、御津町、灘崎町では、研究会、任意協議会での取組みを経て、平成十六年三月に法律に基づいて

「岡山県南政令市構想（岡山市・御津町・灘崎町）合併協議会」の設置に至り、合併協議を重ねてきましたが、九月二十五日の第八回会議をもってすべての協議が終了し、合併協定事項がとりまとめられました。

これを踏まえ、十二月に入って岡山市、御津町、灘崎町の各議会に合併関連議案が提案され、三市町すべての議会の議決が得られたことから、十二月十七日、岡山市長、御津町長、灘崎町長から岡山県知事に対し合併申請を行いました。

これを受け、県議会では平成十七年二月四日に合併の議決がなされ、二月七日に県知事による合併の決定と総務大臣への届出が行われたことから、総

務省告示によって三月二十二日を期日とする三市町の合併が正式に決まり、人口約六十七万の新「岡山市」が誕生することとなりました。

三月二十一日には、岡山コンベンションセンターで岡山市合併記念式典を開催し、また、三月二十二日には旧御津町役場及び旧灘崎町役場において合併特例区設置・支所開所式を行い、新しい岡山市としての業務を開始しました。

今年「国体」  
「全国障害者スポーツ大会」の年！

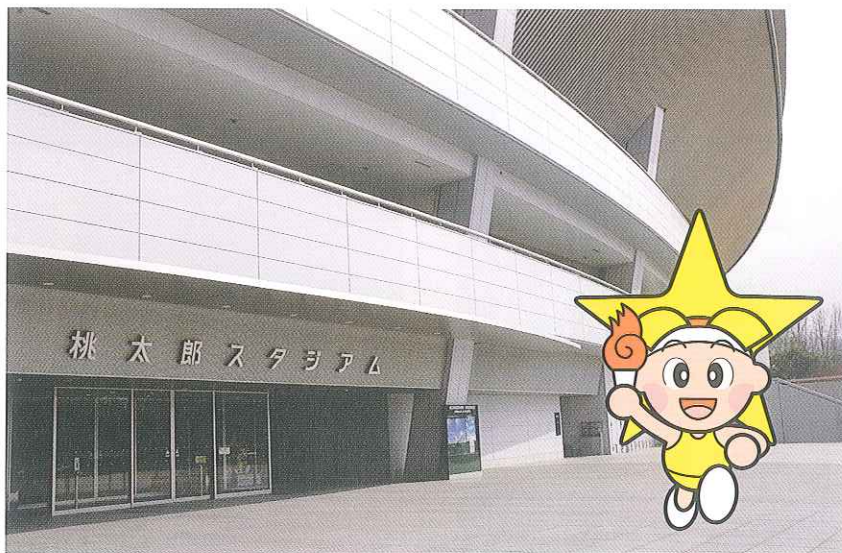
連合町内会におかれましては、このたびの合併実現の大きな原動力となっていたいただき、厚く感謝申し上げる次第です。本市としては、この合併を契機に市民福祉の一層の向上と中四国の雄都というにふさわしい拠点性アップに努め、「国際・福祉都市」の実現に向けて、政令指定都市への移行を目指してまいりますので、引き続き力強いご支援をお願い申し上げます。

国体・障害者スポーツ大会局

山で開催されるのは、初めてとなります。

市民運動へのとりくみ

この二つの大会を市民運動の力で盛り上げていこうと、岡山市連合町内会をはじめとする約六十の諸団体により、平成十四年八月に「岡山市民運動推進協議会」が設立され、



メイン会場となる桃太郎スタジアム

クシング競技  
まで、九競技十  
大会にわたっ  
て、清掃活動  
や花づくり、  
歓迎のぼり旗  
による会場づ  
くり等の各種  
活動にご協力  
をいただきま  
した。

今年がいよ  
いよ本番です。  
全国からいら  
っしゃる選手・  
監督をはじめ  
とする多くの  
方々を温かく

現在、花いっぱい運動の実施や、  
手作り記念品の作製、国体選  
手出前講座の実施等々の事業  
を展開していただいていると  
ころであります。

また、小学校区を単位とす  
る市民運動の地域組織も立ち  
上がり、昨年の国体競技別リ  
ハーサル大会では、六月のポー  
ト競技を皮切りに十一月のポ

お迎えし、本市に対して良いイ  
メージを持って帰っていただけ  
るよう、みんなで盛り上げてい  
きましょう！  
民泊へのとりくみ

去る、平成十六年十月三十  
日(土)、岡山コンベンション  
センターにおいて民泊協力会  
の合同設立式を行いました。当  
日は、連合町内会を中心に、

四十二学区から大勢の方にお  
集まりいただき、岡山市長よ  
り各民泊協力会の会長に対し  
て、委嘱状が交付されました。  
約二年余り、連合町内会をは  
じめとする学区の皆様のご協  
力により、無事、予定していた  
学区での受入体制を整えるこ  
とができました。

選手の方々の宿泊場所と  
しては、コミュニティハウスや  
公民館の利用

を中心 に計画  
しております。  
今後は周辺の  
清掃や歓迎の  
ための装飾、食  
事の用意や競  
技の応援など、  
多くの協力が  
が必要になり  
ますので、学区  
の力を結集し  
て取組んでい  
ただきたいと  
思います。選  
手達と過ごし  
た時間はそれ



平成16年7月 清掃活動の様子

それぞれの思い出となり、無事、民  
泊が終われば喜びもまたひと  
しおだと思えます。

現在、各協力会では、岡山  
らしい食事を選手に味わって  
いただくため、調理講習会や  
試食会を開催し準備を進めて  
いるところです。

「まちづくり」へのとりくみ  
「国体」と「全国障害者ス  
ポーツ大会」により多くの市

民の方々が、参加し協力する  
ことで築かれた人と人とのつ  
ながりは、両大会終了後の「ま  
ちづくり(地域づくり)」にも必  
ずや活かされるものと確信し  
ております。

本番まで、残りわずかです。  
市民の皆さまの総力をあげて、  
必ず「国体」と「全国障害者  
スポーツ大会」を成功させま  
しょう!!

## 防災について

### 総務法制課防災対策室

台風、高潮、地震、津波と昨  
年は日本のみならず世界各地  
で自然が猛威を振るった年と  
なり、昨年一年を象徴した漢  
字に「災」が選ばれました。

また、今年には阪神淡路大震  
災からちょうど十年という節  
目の年であり、テレビや新聞  
等で防災に関する報道が数多  
くなされました。そうした中、  
感じておりますことは、岡山市  
においても市民の皆様の防災



台風16号による被害の様子(小串米崎)

意識が確実に高まっているという事です。

昨年のような台風災害への警戒はもちろん、東南海・南海地震の発生確率も三十年以内に五〇〜六〇%と国が発表していますが、万が一の大規模な災害に対処するためには個人、地域、行政が連携を図り一体となった取り組みが必要

です。そして、まず何よりも自分の身は自分で守ることが重要で、常日ごろから防災意識を高め、「平時からあらゆる災害を想定し、その対策を講じておく」ことです。たとえば家具の固定、食料や飲料水の備蓄、懐中電灯やラジオ、非常持出品の準備など、家庭での準備が必要です。

また、地震の発生を事前に知ることは困難ですが、風水害の場合にはテレビやラジオを通じて事前の気象状況を把握することが可能であり、さらにインターネットをご利用の方はより詳細な情報を得る

ことも可能ですので、情報の入手に心掛け早めの対応をお願いします。

次に大規模災害時には地域で助け合う体制づくりが大切です。今盛んに言われているのが災害時における「共助」です。阪神淡路大震災では倒壊家屋等に閉じ込められた人の九五%は自力や家族、隣人の救出で助かっているなど地域住民が協力し合って救助活動を行い、多くの人命を救った事例が報告され、地域における自主的な防災活動の大切さが改めて認識されました。

本市においても地域の防災力の強化が重要であるとの観点から、町内会を基本単位として自主防災会の結成をお願いし、二〇〇団体余の結成をいただいたところですが、今後も皆様方のご協力を得ながら推進していきたいと考えておりますので、ご理解とご協力よろしくお願い申し上げます。

## 学区の動き

### 「地域の伸展を願って」

三門学区連合町内会  
会長 平山 要

「岡山西地域に光を…」遠くて永い地区民の願望がようやく実り昭和三十七年の岡山国体以来、久しぶりに岡山駅の西口周辺の整備に曙光が訪れ、今秋の国体に向けて大きく変貌しようとしております。

三門学区では南北の動脈となる都市計画道路「津島―米倉線」の一八〇号線への接続工事が進められ交通体系に明るい展望が開かれようとしており、その実現に大きな期待を寄せているところです。

現在、学区内にJ R吉備線踏切が七カ所もあり、南北の幹線道路は狭隘な県道一本のため、交通渋滞と危険に悩まされ続けております。

連合町内会では、「地域の伸展と安全で安心な街づくり」

に向けて、踏切解消のため吉備線高架の実現を県・市・J R当局に学区民の悲願として要請してきております。

その一方で路面電車の構想が聞こえてきておりますが、次の世代に禍根を残さないために地域の将来像を見据えながら、現在の交通体系を見直し麻痺状態の早期緩和をめざして、連合町内会をはじめ各種団体が一枚岩になって取り組んでいる昨今です。

### 「曹源寺のある町

#### 富山(とみやま)学区」

富山学区連合町内会  
会長 黒田 智昭

人口一四、〇〇〇人弱、戸数五、〇〇〇戸、操山の南ふもとに東西に広がる細長い住宅地帯である。瀬戸の沿岸であった「とみやま」は地名も湊、円山、山崎、福泊、海吉と昔の面影を今に伝えている。藩政時代の干拓地である学区には操山や倉安川、曹源寺など豊かな自然や史跡が多い。

公共の幼・小・中各一校と公民館、コミュニティハウスもある。

高齢化率も二〇%と進んでいるが元気な人が多く地域活動の輪が拡がり活気のある地域である。趣味の講座グループは二二〇にのぼり各種行事の中心的な役割を担っている。ボランティア活動も活発で、幼・小・中学校のボランティア先生は一〇〇人を超え学校と連携して子供たちの健全な育成と「ふる里」づくりを進めている。今年二月、鳥取市自治連合会と姉妹交流提携を結んで脚光を浴びている岡山藩主池田家の菩提寺曹源寺は国際交流の平和文化活動の拠点である。寺には世界十数カ国から多くの人が入山し禅の修業をしている。地域との交流、協力も進み、発展途上国の子供の教育を支援するバザーや募金活動も実施している。

学区民協働の町づくりに二十一町内会が結束している。今年学区人権教育の仕上

げの年。さらなる安全、安心の町を目指して!!

晴れの国岡山国体、おいでんせえ富山へ。

### 「継続は力なり」

可知学区連合町内会  
会長 立川 恭司

燦燦とした朝日が芥子山（備前富士）から昇り、茜色の夕陽が東山に沈む。百間川（旭川の放水路）の水面では水鳥が楽しそうに遊泳している。これが学区の今日一日である。かつては恵まれた沃野に米麦を営農する裕福な農家が散在していた。それも高度成長に伴い岡山市のベッドタウン化し、県営団地をはじめ主要道路沿いにスーパー、医院、商店街が形成され人口が膨張し、三十年前には小学校は二校となり町は分割される形となった。学区民としては恵まれて多士済々で新しい町内会、団体は三十余りで昔からの組織とは縦系横系の絆で結ばれ各々



百間川清掃の様子

が自主性を重んじ伝統のものとし新しいものが有機的に活動している。主なものが夏祭、秋祭であろう。

もう一つの例として町内に残る数少ない緑地、百間川堤防、河川敷の清掃がある。年二回ではあるが十数年実施し、参加者は二二〇人から二二〇人が定着している。

補導にも繋がり格好のコミュニケーションの場となっている。

これと言うのも学区民が誠実で勤勉であることに起因しているようです。古い公会堂には今でも「以和為貴」が掲額されており晴耕雨読で昔は論語を語り、時代とともに黒正巖先生（元岡山大

「継続は力なり」と言いました。ようか、最近では国会、県会、市会の先生方から市長さん、市の幹部の方々も参加いただいている。それが起爆剤ではないが中学校、小学校、老人会等も独自の形でその輪が拡がっている。これは環境整備だけでなく情操、防犯、

失敗から成功に導く話とともに、偉業を後押しする話も数々耳にする。

時代は刻々と地球規模で変化が要請されている。司法、裁判にも見直す気運が台頭してきている。私達の身近な行政も役所の常識と世間の常識、幹部の方と現場の方の温度差はないだろうか：公平な諸施策がマニュアルによってなされるならばお互いにその乖離（乖離）しているものを少しでも縮め産官学が目的、方向性に柔軟な発想で取組んでもらいたいものだ。それには地域の者も前向きに協力したい。

「防災意識の甘さを  
反省させられた  
台風16号の経験」

福島学区築港栄町町内会  
会長 黒田 三郎

「大変！水がきている」と家内が叫んだ。台風16号が県南を襲った八月三十日夜半の事である。私は「まさか」と窓を開けて驚いた。一面大海である。玄関に海水が入り「あつ」と言う間に下駄箱がひっくり返った。洋間が危ないとスイッチを入れた途端に停電。「それ懐中電灯だ」と慌てて探し、見つけた時にはもう浸水していた。その日の午後、高潮警報が出ていたのだが殆どの人が高を括っていた。「まさか」の大潮と満潮、同時に台風が重なったのだ。午前一時頃には潮が引き「はっと」した。

収集を望む声が多く、市への要請、十一番川沿いの歩道を収集場所指定し取組んだが、心ない人の便乗を助長し、市に迷惑をかける事になった。粗大ごみの山で一時はどうなる事かと心配したが、南事業所から十五台の収集車が動員され一時間余で見事に完了した。収集車の素晴らしい機能と作業員の手早い行動を目の当たりにして、私達は感動した。そして心から有難うと感謝したのである。

（福島学区の被害、床上浸水三十五世帯、床下浸水四四五世帯）

「建立された藤田干拓  
一〇〇周年記念碑」

第二藤田学区連合町内会  
会長 遠藤 太郎

我が国の多くの干拓事業のなかでも児島湾の干拓は成功例と考えられています。そして、児島湾の干拓では藤田地区が代名詞となっていることにご承知の通りであります。

錦地区は明治三十四年（一九〇四年）潮止めが行われていまずので平成十六年に一〇〇周年を迎えました。

岡山県南部はその昔瀬戸内海に浮かぶ島々が点在していました。この間に高梁川、旭川及び吉井川が流入し、これら三大河川の永い間の沖積作用で干潟ができ児島湾が形成されました。その児島湾を江戸時代から逐次干拓を行ってきたことが知られています。

錦干拓では一〇〇周年という大きな節目を迎えるにあたり、平成十四年度から連合町内会を中心に記念事業を検討し、平成十五年度には地区内の全組織に参加をお願いして五十名の記念事業実行委員の選出をしていただき、「藤田干拓一〇〇周年記念事業実行委員会」を発足いたしました。

委員会では記念事業として次の事項について実施することを決め作業に入りました。

一 事業の収支計画と協賛金の募金

- 二 記念碑の建立
  - 三 記念式典の開催
  - 四 小冊子「蒼海から田園都市」の発行及び記念品を併せて全世帯に配布
  - 五 NHK「のど自慢」の開催
- 記念碑は国営事業により平成十五年度に完成した藤田用排水機場の南八十メートルに建立し、揮毫は元内閣総理大臣橋本龍太郎先生にお願いしました。

平成十六年五月九日（日）に記念碑の除幕式を行いました。碑文は力強く「共生」と書かれています。共生とは広辞苑によると「種別異なる生物が同一地域に棲息すること」と記されています。これは自然環境を極めて良くすることを意味し、二十一世

紀の大きな課題といえます。のど自慢は会場規模の都合により岡山市総合文化体育館（浦安）に於いて、八月二十一日（土）予選会、翌日の二十二日（日）の生放送により、NHKのラジオとテレビで全国放送されました。のど自慢の開催については炎天下に地元の多くの方の協力をいただきました。



藤田干拓100周年記念碑除幕式

一〇〇周年を顧みれば多くの先人が幾多の困難を克服し、努力された集積が今日の郷土となつています。

社会の進展も早くなり、国際化の進む今日ですが、これから将来に向かつて環境を良くし、自然との調和を大切に生命感のあふれる地域創りが私共の責務と考えます。

記念事業実施にあたりご協力いただいた国県市ならびに係者各位に厚くお礼申し上げますと共にご協賛いただきました、町内会の皆様、各種団体、企業各位に深く感謝いたします。

## 「津高地区連合町内会」活動について

馬屋上学区連合町内会  
会長 齋藤 行義

津高地区(横井学区・野谷学区・馬屋上学区)二十五の町内会は年一回五月に総会を開催し本年度の事業計画を立案実現するよう日夜努力してるところであります。

岡山市(津高支所)に対して

は中学校・小学校の校庭の拡張、市道の整備等を要望し、協力できるところは話し合いを深め緊密な連携を保っております。

津高といえばマスクット・オプ・アレキサンドリア葡萄栽培発祥の地で原始温室を再現し保全につとめております。津高ふれあいマスクット祭りを毎年九月の第三日曜日に開催しており十四回目が終わったところですが、地区の活性化、マスクットのPR、津高四つ拍子おどり、マスクット音頭等を披露し親睦と交流を深めております。

たくさんの葡萄の品種がございますが、マスクットは果物の女王といわれるとおり、品質においてこれを凌ぐものはありません。岡山市、岡山県、国の特産物として発信したいと考えております。

学区の運動会、花火大会、餅つき大会、親子まつり、香和地区青少年指導協議会等々津高地区連合町内会が真価を発揮するよう取組んでいる現状であります。

## 岡山市連合町内会の動き

### ◎定期総会

(平成十六年六月二日)

一 平成十五年度事業報告並びに決算の承認。

二 平成十六年度事業計画並びに予算の承認。

三 規約の改正について  
牧山地区統合と「役員」役員会の「理事」「理事会」への呼称変更等による規約の改正を承認。

◎理事会

・第一回(当時役員会)定期総会について他(平成十六年五月十四日)

・第二回 全国自治会連合会岡山大会について他(平成十六年十月二十九日)

・第三回 おかやま連町だよりについて他(平成十六年十二月二十日)

◎常任理事会

・第一回 定期総会について他(平成十六年四月二十八日)

・第二回 会計監査結果報告について他(平成十六年五月十四日)

・第三回 合併問題について他(平成十六年七月二十六日)

・第四回 常任理事会構成員と岡山市幹部職員との市政懇談会について他(平成十六年八月十八日)

・第五回 合併・政令指定都市問題について他(平成十六年九月十四日)

・第六回 全国自治会連合会岡山大会について他(平成十六年十月二十九日)

・第七回 おかやま連町だよりについて他(平成十六年十二月二十日)

・第八回 西部新拠点まちづくり説明会(平成十七年二月十四日)

◎研修視察

(平成十六年十一月二日～二日) 会員六十名が防府市自治会連合会を訪問し、住民自治の活動状況等について研修をいたしました。また、萩市を訪れ見識を深めました。

◎常任理事会構成員による研修視察(平成十七年一月二十四日～二十五日)

常任理事会構成員十三名が、福井市自治会連合会を訪問し、住民自治の活動状況等について研修をいたしました。

◎新春互礼会・市政報告会(平成十七年一月七日)

サン・ピーチOKAYAMAにおいて萩原市長、垣下市議会議長、楠木副議長、菱川助役、井口助役、高田収入役等と会員七十二名が出席し、兼松会長のあいさつの後、受賞報告、花束贈呈、市政報告等を行い、懇談をいたしました。

◎視察研修の受け入れ(平成十六年五月二十六日)

・鳥取市自治連合会(平成十六年七月八日)

・桑名市自治会連合会(平成十六年七月二十二日)

住民自治の活動状況等について研修をいたしました。

◎新春互礼会・市政報告会(平成十七年一月七日)

サン・ピーチOKAYAMAにおいて萩原市長、垣下市議会議長、楠木副議長、菱川助役、井口助役、高田収入役等と会員七十二名が出席し、兼松会長のあいさつの後、受賞報告、花束贈呈、市政報告等を行い、懇談をいたしました。

◎視察研修の受け入れ(平成十六年五月二十六日)

・鳥取市自治連合会(平成十六年七月八日)

・桑名市自治会連合会(平成十六年七月二十二日)

◎IT専門委員会の設置

連合町内会内の電子町内会や情報化への関心が高まる中、電子町内会の活動を連合町内会の活動として位置付け、組織的に支援する必要があるため、平成十六年五月十四日の理事

会(当時役員会)の承認を経てIT専門委員会を設置。平成





永年町内会長 表彰状・感謝状贈呈式

十六年度四回開催。  
 ◎要望書の提出  
 第二回理事会の決議により、「二連の台風被害に対する早急な復旧」の要望書を、平成十六年十一月十七日に岡山市市長に、平成十六年十一月二十二日に岡山県知事に提出。  
 ◎鳥取市自治連合会との姉妹

交流提携  
 平成十七年二月二日、鳥取市自治連合会と当会の両会長が相互に訪問し、それぞれ、両市長立ち会いのもと姉妹交流提携調印式を行いました。  
 ◎常任理事会構成員と岡山市幹部職員との市政懇談会  
 (平成十六年八月十八日)

五年以上学区(地区)連合町内会長の職にあり退任された方：三名(感謝状)  
 ◇永年勤続町内会長知事表彰  
 (平成十六年五月二十一日)  
 ・岡山市関係：十三名  
 ◇岡山市表彰(有功表彰)  
 (平成十六年十一月三日)  
 ・橋本俊行氏  
 (箕島学区連合町内会長)  
 ◇全国自治会連合会会長表彰  
 (平成十六年十月十四日)  
 ・赤木實男氏  
 (深砥地区連合町内会長)  
 ・片山晋氏  
 (鹿田学区連合町内会長)  
 ◇市長表彰  
 (平成十六年十二月一日)  
 ・二十年以上単位町内会長：八名(表彰状)  
 ・五年以上退任単位町内会長：六十名(感謝状)  
 ◇岡山日日新聞賞  
 地域振興部門(新設)  
 (平成十六年十一月十一日)  
 ・兼松久和氏  
 (全国自治会連合会会長・岡山市連合町内会会長)

計報  
 岡山市連合町内会理事(前副会長)佐藤正信氏が平成十六年三月二十三日に逝去されました。  
 内山下地区連合町内会長(前常任理事)白川文弘氏が平成十六年五月六日に逝去されました。  
 謹んで哀悼の意を表します。

岡山県自治会連合会の動き

◎理事懇親会  
 (平成十六年十二月二十日)  
 倉敷チボリ公園 アンデルセンホールにおいて、第三回理事会開催後、理事二十九名が参加し懇親会を行いました。  
 ◎受賞報告  
 ◇岡山市連合町内会長表彰  
 (平成十六年六月二日)  
 ・十年以上学区(地区)連合町内会長の職にある方またはあった方：六名  
 (表彰状)

◎総会(平成十六年六月三十日)  
 津山市役所において、役員十六名が出席のもと開催されました。  
 ◇会長表彰  
 ・福村一雄氏  
 (前建部町区長協議会長)  
 一 平成十五年度事業報告並びに決算の承認。  
 二 平成十六年度事業計画並びに予算の承認。  
 三 総務大臣表彰及び全国自治会連合会会長表彰者について  
 ◎加入促進活動の動き  
 ・五月 新庄村、奥津町、上齋

◎正副会長会議  
 第一回  
 (平成十六年十月二十五日)  
 第二回  
 (平成十七年三月二十三日)  
 平成十七年度全国自治会連合会創立二十周年記念岡山大会開催に向け、実行委員会の立ち上げ等について協議しました。  
 ◎全国自治会連合会中四国地区連絡協議会総会(山口県防府市)  
 (平成十七年二月二十五日)

原村を北村理事が訪問。  
 ◎全国自治会連合会仙台大会への参加  
 (平成十六年十月十四日)  
 宮城県仙台市の「パレスへいあん」において開催され、全国の三十道府県から約三〇〇名が参加し、表彰式、講演会、情報交換等実り多い大会となりました。岡山県自治会連合会から、十八名が参加しました。  
 ◎永年勤続町内会長・区長等岡山県知事表彰式(県庁)  
 (平成十六年五月二十一日)  
 兼松会長が来賓として出席。

兼松会長、岩田副会長、片山理事、黒住会計が出席。

◎「晴れの国おかやま国体・輝いて！おかやま大会」県民運動を進める会

・平成十六年六月四日東谷夏樹氏（岡山県自治会連合会副会長・倉敷市児島自治連合会会長）が幹事会幹事に就任。

・平成十六年八月五日兼松久和氏（岡山県自治会連合会会長・岡山市連合町内会会長）が副会長に、東谷夏樹氏が副幹事長に就任。

・東谷夏樹氏に代わり坂本道治氏（岡山県自治会連合会監事・津山市連合町内会副会長）が副幹事長に就任。

・第四回幹事会  
（平成十六年八月五日）  
・第五回幹事会  
（平成十七年二月十七日）

### 全国自治会連合会の動き

◎加入促進活動の動き

兼松会長自ら、組織拡大のため、次のとおり訪問しました。



地縁による団体功労者総務大臣表彰式：総務省講堂  
（左から石川副会長、久保審議官、兼松会長、久元行政課長、大橋副会長）

・九月 愛媛県自治会連合会、高知市町内会連合会、三沢市連合町内会（青森県）、弘前市町会連合会（青森県）訪問。

・十二月 玉名市区長協議会（熊本県）、飯塚市町内会長会（福岡県）訪問。

・二月 堺市自治連絡協議会、東大阪市自治協議会を訪問。

平成十七年二月三日に東大阪市自治協議会から全国自治会連合会に加入届が提出され受理されました。

◎理事会（総会）（東京都）  
（平成十六年六月・十月）

第二回理事会において平成十七年度の全国大会を岡山市において開催することを決議。

◎常任理事会

平成十六年四月（金沢市）・六月（神戸市）・十月（四月・八月の常任理事会以外は東京都）

◎総務大臣表彰被表彰者選考委員会及び全国自治会連合会会長表彰被表彰者選考委員会（神戸市）  
（平成十六年八月二十五日）

◎東京都町会連合会二〇周年記念式典（東京都）  
（平成十六年六月十六日）

兼松会長が来賓として出席。  
◎要望書の提出  
（平成十六年七月七日）

「栄典制度に関する要望書」「総務大臣表彰推薦枠拡大に関する要望書」を総務省へ再提出。

◎市民憲章運動推進第三十九回全国大会（大牟田市）  
（平成十六年七月二十四日）

兼松会長が来賓として出席。

◎中部自治会連絡協議会総会（岐阜市）  
（平成十六年十月二十七日）

兼松会長が来賓として出席。

◎地縁による団体功労者総務大臣表彰式（東京都）  
（平成十六年十一月十日）

兼松会長が来賓として出席。

◎山口県自治会連合会研修会（下関市）  
（平成十六年十一月十八日）

兼松会長が来賓として出席。

◎村田防災担当大臣との懇談  
（平成十七年三月十四日）

兼松会長他二名が村田防災担当大臣と懇談しました。

### お知らせ

・平成十七年度定期総会

平成十七年六月一日（水）  
メルパルクOKAYAMA

・平成十七年度全国自治会連合会創立二〇周年記念岡山大会

平成十七年十一月十七日（木）  
岡山フラサホテル

### 編集後記

いよいよ第六十回国民体育大会「晴れの国おかやま国体」と第五回全国障害者スポーツ大会「輝いて！おかやま大会」開催の年を迎えました。

岡山市では歓迎の熱気が、にわかには高まっております。

年初めには池田公とのえにしをたどり、鳥取市自治連合会と姉妹交流提携の調印をし、姫路市連合自治会とも交流の輪を拡げたいと諸準備を進めております。

さらには、全国自治会連合会創立二〇周年記念大会を十一月に岡山市で開催することも決定しております。

今回は、紙面を二〇頁とし、一層内容の充実を図りました。本紙発刊にあたり寄稿いただいた方や関係諸氏に心から感謝申し上げますとともに、皆様の今後ますますのご活躍を祈念いたしております。

### 【編集委員】

片山 晋 北村 治政  
藤原 浩 遠藤 太郎  
森本 享 黒住小弥太

編集委員長

塩飽 幹廣